

福岡市環境基本計画（第三次）素案策定作業部会の進捗状況について

1 福岡市環境基本計画（第三次）素案策定作業部会の概要について

■名 称

福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会 （福岡市環境審議会に設置）

■所掌事務

- ①福岡市環境基本計画（第二次）の検証及び課題の抽出・整理
- ②福岡市環境基本計画（第三次）素案及び骨子の作成

■委 員

（敬称略：五十音順）

小出 秀雄	西南学院大学 経済学部 教授
古山 通久	九州大学 稲盛フロンティア研究センター 教授
平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 事務局長
久留 百合子	株式会社 ビスネット代表取締役 / 消費生活アドバイザー
◎ 藤本 一壽	九州大学大学院 人間環境学研究院 教授
二渡 了	北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科 教授
松藤 康司	福岡大学 工学部 教授
◎ 松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 教授

◎・・・部会長

※環境審議会会長も、上記作業部会委員とともに本作業部会に参加する。

2 策定スケジュールについて

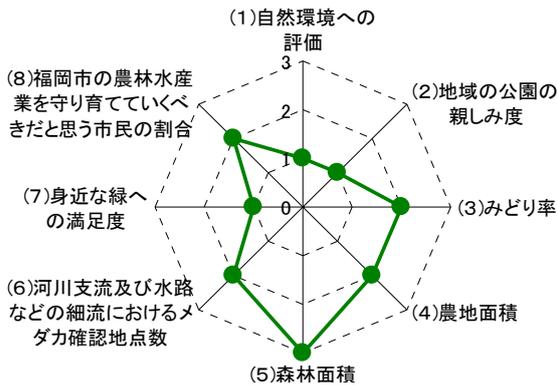
年 月	平成25年度							平成26年度								
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	...	9	
	骨子案作成							素案作成							パブコメ	策定
環境審議会	総会（諮問）		作業部会（現計画検証）	総会（現計画検証）		作業部会（骨子①）	作業部会（骨子②）	総会（骨子）	作業部会（素案）			総会（素案）	答申		総会（策定報告）	
市議会	第5委員会（着手）								第5委員会（骨子）			第5委員会（素案）			本会議報告	
市民対話				開催												

### 3 作業部会（8/26）報告 ～ 現行計画の検証について

#### 【検証の方法】

- ・ 全部で 30 の成果指標ごとに「目標達成度」の評価及び「事業実績」,「外部要因」を考慮した上での 3 段階の総合評価を行う。
- ・ 下記レーダーチャートの各軸 ((1),(2),…) は成果指標の総合評価の結果を表している。  
(節によって指標の数は異なる)

#### 第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり



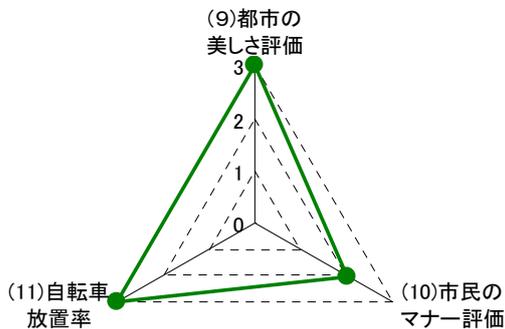
#### 【作業部会における主な委員意見】

- ・ 「(5)森林面積」は、減少率が極めて低いため、「現状維持」が目標となっていることに照らすと、目標を概ね達成していると評価できる。

#### 【計画内容に関する検討課題】

- ・ 身近な緑に対する満足度(アンケートにおける市民の回答)は目標水準を下回っており、更なる対応が必要である。
- ・ 成果指標には、計測頻度が数年に一度の指標(「(3)みどり率」,「(6)メダカ確認地点数」等)が含まれており、中間段階の進捗評価を困難にしている。計測の確実性や適時性確保の観点からの見直しを行う必要がある。

#### 第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり



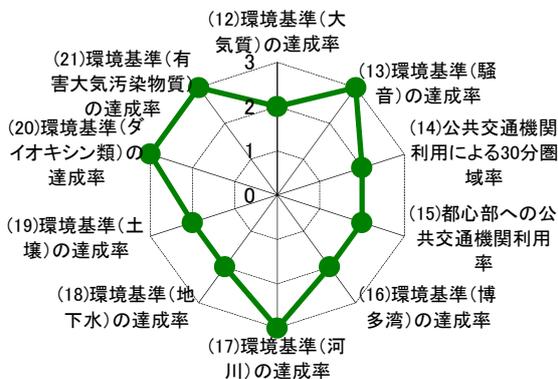
#### 【作業部会における主な委員意見】

- ・ 「(10)市民のマナー評価」は、指標としては達成していない(評価 C)かもしれないが、各種広報啓発事業やモラル・マナー推進指導員による指導など、市のさまざまな取組は評価できる。

#### 【計画内容に関する検討課題】

- ・ 自転車マナーに対する市民評価が近年低下しており、更なる対応が必要である。

#### 第3節 健康で安全・安心な環境の確保



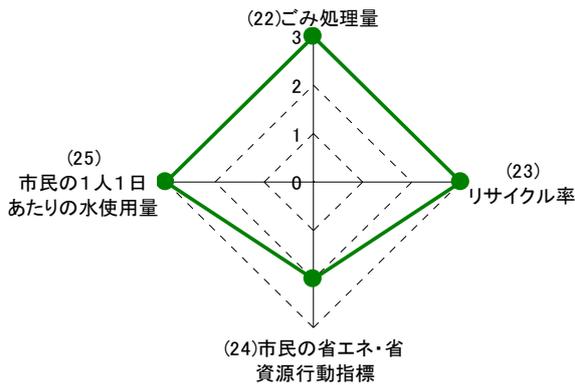
#### 【作業部会における主な委員意見】

- ・ 「(15)都心部への公共交通機関利用率」の指標は、10年に1回しか把握できない指標であり、評価が難しいが各種交通マネジメント施策等、取組みそのものは評価できる。

#### 【計画内容に関する検討課題】

- ・ 浮遊粒子状物質(SPM)及び博多湾の化学的酸素要求量(COD)の環境基準達成の状況が目標水準を下回っており、更なる対応が必要である。
- ・ 成果指標には、一度も計測されていない指標(「(19)土壌の環境基準達成率」)が含まれており、中間段階の進捗評価を困難にしている。計測の確実性や適時性確保の観点からの見直しを行う必要がある。

#### 第4節 環境への負荷が少ない循環型社会の構築



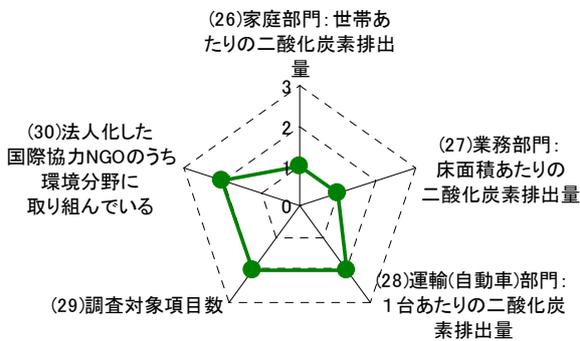
#### 【作業部会における主な委員意見】

- ・ ゴミ処理量やリサイクル率、市民の省エネ行動指標、水使用量は総じて順調に推移しており、取組みの継続が望まれる。

#### 【計画内容に関する検討課題】

- ・ 平成 23 年度に「新循環のまち・ふくおか基本計画」を策定し、ゴミ処理量を平成 21 年度の約 58 万トンから約 11 万トン削減することを目標としているが、近年は人口の増加などの要因もあり、ゴミ処理量は横ばいになっている。

#### 第5節 地球環境問題への対応と国際的貢献



#### 【作業部会における主な委員意見】

- ・ 「(28) 運輸(自動車)部門：1 台あたりの二酸化炭素排出量」は、取組の効果もさることながら、自動車単体の性能向上の寄与が大きい点に留意する必要がある。

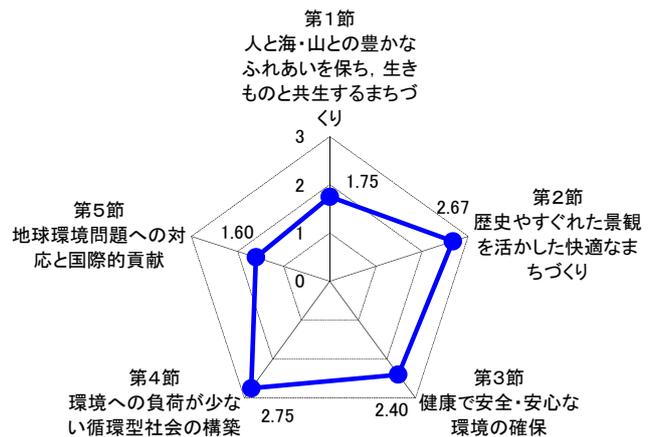
#### 【計画内容に関する検討課題】

- ・ 家庭部門及び業務部門の二酸化炭素排出原単位の低減が進んでおらず、更なる対応が必要である。
- ・ 諸々の外的要因(世帯構成人員、電源構成等)の強い影響によって、市による施策の効果が成果に届きにくい状況になっている指標((26)世帯あたりCO<sub>2</sub>排出量、(27)床面積あたりCO<sub>2</sub>排出量等)がある。施策と成果の関連性確保の観点からの見直しを行う必要がある。

#### 【計画全体の評価】

- ・ 「第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり」及び「第4節 環境への負荷が少ない循環型社会の構築」については、一定程度、目標が達成されており、取組みの継続が望まれる。
- ・ 一方で、「第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり」、「第3節 健康で安全・安心な環境の確保」及び「第5節 地球環境問題への対応と国際的貢献」については、取組みの強化が必要である。
- ・ 指標の一部については、計測の確実性や適時性確保の観点からの見直しを行う必要がある。

#### 計画全体の評価



※各軸の値は、各節に含まれる複数の成果指標の総合評価(目標達成度を3段階で評価したもの)について、結果の平均値を表している。

## 4 作業部会（8/26）報告 ～ 第三次計画策定に向けた課題について

### ■計画の位置づけに関する課題

- 関連計画（国の第四次基本計画や第9次福岡市基本計画等）との整合性を図ることが必要。
- 福岡市環境基本計画の役割について明確にすることが必要。
- 持続可能な社会の基盤としての「安全」確保の視点が必要。
- 市民・事業者による自主的行動の促進が必要。
- 再生可能エネルギーを含む低炭素の分野についてより明確に整理することが必要。

### ■策定のポイント

#### ア) 他の政策分野との連携強化

国の第四次環境基本計画等の上位計画や、環境分野に関する市の各部門別計画等との整合を図り、その施策体系の中で第三次計画が果たす役割について整理する。

また、「第9次福岡市基本計画」（H24.12策定）や「福岡市新世代環境都市ビジョン」（H25.3策定）等を受け、第三次計画においては、「自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市」の実現に向け、環境面の取組みだけでなく、社会・経済等の各政策分野との連携強化を図り、これらの要素も幅広く取り込んだ施策を展開する必要がある。

#### イ) 持続可能な社会の前提である「安全」の確保

東日本大震災後に策定された国の第四次環境基本計画において、安全確保を前提とする持続可能な社会像が示されたほか、本市においてはPM2.5問題をきっかけとして環境汚染による健康影響への市民の関心が高まっている。この「安全」の確保という視点を、第三次計画においてどのように盛り込むかについては、工夫が必要である。

#### ウ) 市民や事業者の自主的行動の促進

各地域において、環境活動を実施している市民等を中心として、市民・団体等が連携し、より多くの主体に環境行動の輪が広がるような取組みを展開する。

#### エ) 構成の見直し

施策の分類や記載順なども含めた全体の構成については、国の環境施策に留意しつつ、福岡市らしさを取り入れた、わかりやすい施策体系となるよう整理する。

## 5 作業部会（8/26）報告 ～ 市民対話について

第三次計画策定にあたり、「計画への意見反映」を行うとともに、計画策定後の参加者の自主的な行動促進につなげる「意識の高揚」も促進することを目的に、計画策定の早い段階において市民との意見対話を行う。

<実施概要>

項目	内容
対象者	主に市内全域で環境活動を実施している以下の方々を中心に構成。 <ul style="list-style-type: none"><li>○「福岡市環境行動賞」受賞者</li><li>○「エコ発する事業」補助団体 等</li></ul>
実施手法	ワールド・カフェ方式 <ul style="list-style-type: none"><li>・主な環境分野（例：低炭素・エネルギー、生物多様性、資源循環等）ごとにグループを分け、グループごとにメンバー交換しながら自由な雰囲気です話し合いを進行。</li><li>・進行役として、総括ファシリテータ、グループマネージャーを配置。</li></ul>
開催時期	10月下旬に一回の開催を予定。
募集方法	市から団体等への呼びかけ、必要に応じて公募なども実施。